

2022(令和4)年度～2026(令和8)年度

# 墨田区 食育推進計画

夢をカタチに！

手間かけて みんなでつくる  
すみだの食育

2022(令和4)年6月

墨田区

## 墨田区食育推進計画とは？

区では、「墨田区食育推進計画」及び「墨田区食育推進行動計画（チャレンジプラン）」を策定し、その後改定を経ながら、「すみだらしい食育文化」を推進してきました。

その結果、区民主導の食育推進体制や協働による食育推進ネットワークが確立し、それを基盤に世代、分野、地域をこえた様々な食育活動が展開されてきました。

また、近年は持続可能な開発目標（SDGs）がめざす“誰一人取り残さない社会の実現”に食育活動が貢献できるとされています。そこで、新たに計画を策定し、これまで区で具現化してきた協働による食育推進に加え、SDGs「目標17 パートナーシップで目標を達成しよう」と「食育ピクトグラム12 食育を推進しよう」の理念を明確に位置づけ、区民などと共に「持続可能な協創の食育」へと発展させていきます。

計画の詳細はこちらのコードから見るができます



### 持続可能な開発目標（SDGs）

SDGsとは、2015（平成27）年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された国際目標で、17の目標と169のターゲットが設定されています。



SDGsの目標には、「目標2. 飢餓をゼロに」、「目標4. 質の高い教育をみんなに」、「目標12. つくる責任つかう責任」などの食育と関係が深い目標があります。

### 食育ピクトグラム

農林水産省では、食育の取組を子どもから大人まで誰にでもわかりやすく発信するため、表現を単純化した絵文字の「ピクトグラム」を作成しています。

ピクトグラムは全部で12個あり、その内容は、食生活指針も参考に、第1次～第3次食育推進基本計画の目標に掲げられ、第4次食育推進基本計画でも重点事項として取り上げられている、普遍的に取り組むべき項目から選択されています。

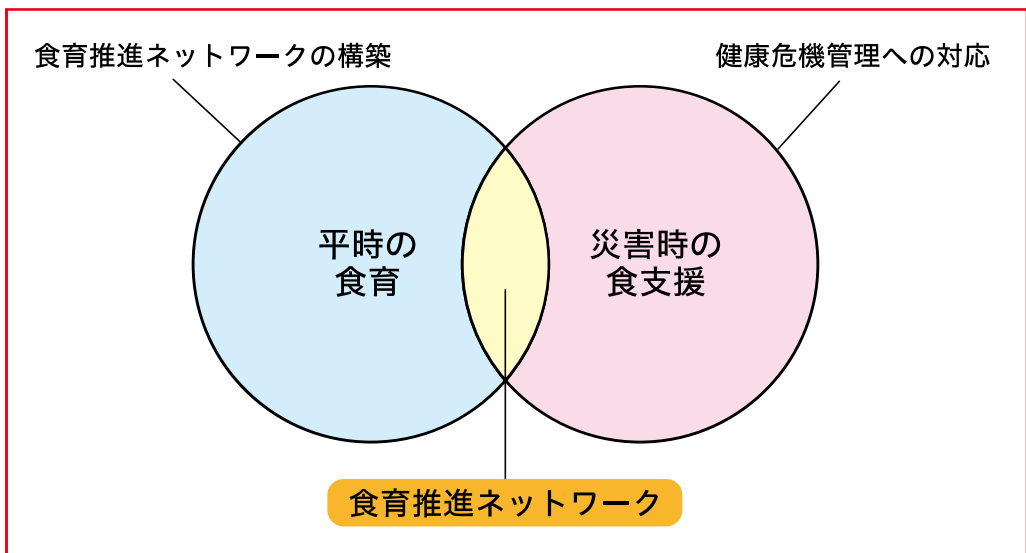


# 墨田区食育推進計画の特色

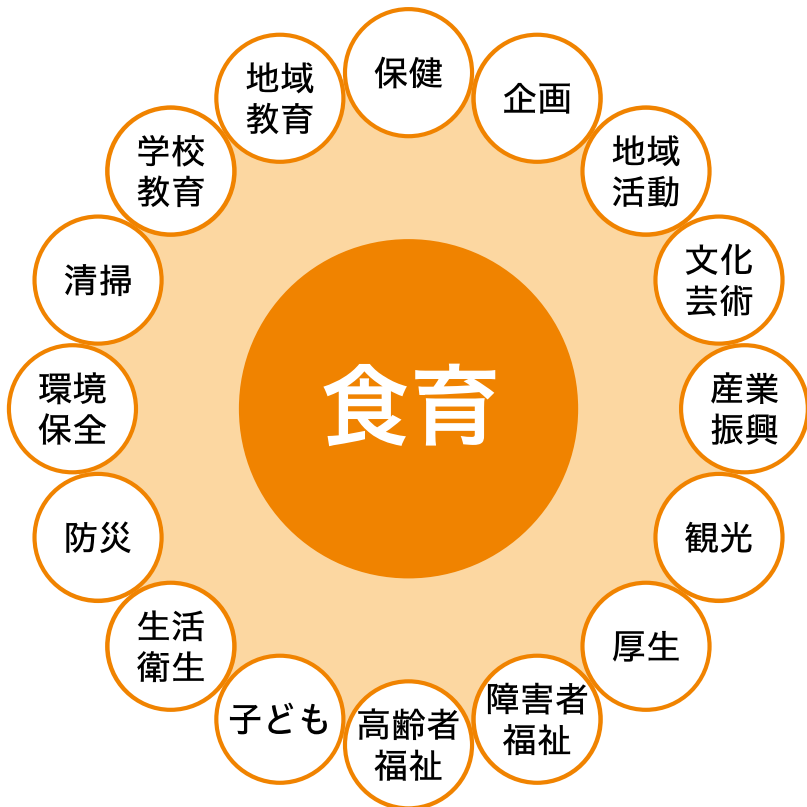
食育は、幅広い分野にわたる取組を横断的に推進することが重要です。

区では、「平時の食育」(食育推進ネットワークの構築)と「災害時の食育」(健康危機管理への対応)の2つの視点を持ち、食育推進ネットワークを成熟させていきます。

## 2つの視点



## 墨田区における多様な分野にわたる横断的な食育の推進



## 墨田区の食育の特長

### ■すみだの食育の原点 ー協働の食育推進体制ー

区では、2007（平成19）年度に「墨田区食育推進計画」を策定してから、これまで協働を実現することによって食育を推進してきました。これにより、「すみだらしい食育」を育んできました。

幅広い多様な主体が、協働で食育を推進してきたことが、「すみだの食育」の原点となっています。



「すみだの食育」イメージ

### ■食育を推進する人材の育成と食育推進ネットワークの発展

区では、食育を推進する「人」に注目し、2008（平成20）年度から「食育を推進する中核となる人材（すみだ食育推進リーダー）」の育成を積極的に進めてきました。これまでのリーダーなどが地域の食育コーディネーターとなり、食育活動を展開しながら多様な主体をつないでいます。

2010（平成22）年度には、すみだ食育推進リーダーを主軸に区民、地域団体、NPO、事業者、企業、大学などとともに、食育推進団体「すみだ食育goodネット」が設立されました。

現在、「すみだ食育goodネット」は、他地域とすみだを食でつなげる活動を進めながら、食育推進のネットワークをさらに広げています。



すみだ食育推進リーダーの活動



すみだ食育goodネットの活動

# すみだらしい食育文化

## すみだがめざす食育

みんなが笑顔でたのしい食環境を通じて豊かな人生をおくる

## 基本理念（スローガン）

夢をカタチに！手間かけて みんなでつくる すみだの食育  
～食を通じて育む区民一人ひとりの豊かな人生～

## すみだらしい食育文化を育む 5つの基本目標



### 食で「ひと」を育む

多様な主体をつなぎ、創造的な食育を推進する人づくりの視点



### 食で「まち」を育む

食を通じた出会いが豊かさを生む魅力あるまちづくりの視点



### 食で「交流」を育む

多様な人々が集い、一緒につくって食べるなどの「協食」の視点



### 食で「安心」を育む

食の安心・安全、災害時の食支援に関わるしくみづくりの視点



### 食で「協働」を育む

食に関わる多様な主体によるネットワークづくりの視点

# リーディングプロジェクト

「すみだがめざす食育」の実現に向けて、本計画全体をけん引するリーディングプロジェクトに取り組みます。

## (1) 多様な人々による「協食」の推進

子どもから高齢者まで多様な人々が集い、食事を一緒につくって食べるなどの「協食」の機会を通じたコミュニケーションや豊かな体験、交流の場づくりを進めていきます。

### 食を通じた様々なコミュニティづくり



多世代型の「すみだ街かど食堂」



北海道芽室町の食材を活かした  
“芽ちゃんこ鍋”で交流

## (2) 国際的な視野でとらえる食文化の普及

“もったいない”の文化から食品ロスの削減、ユネスコ無形文化遺産に登録された「和食」、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシー、世界の多様な食文化などを国際的な視野でとらえ、食文化の普及を進めます。



食育展示「世界の料理」  
(小学校栄養士会)



食育展示「おせち料理」  
(中学校栄養士会)

### (3) 災害時食支援ネットワークの構築

乳幼児や高齢者、アレルギー、疾病、食べる機能、宗教・思想などの理由で災害時に食への配慮が必要な人への食支援を着実にを行うため、区内外とのつながりを活かした災害時食支援ネットワークを構築し、災害対応力のある食環境をつくります。



災害時食支援ネットワーク  
検討会・合同会議



「災害時の食」の普及啓発  
(すみだ食育goodネット)

## 持続可能な推進体制

「すみだがめざす食育」を実現するため、持続可能な環境（しくみ）づくりを行っていきます。

- 庁内協働の環境づくりと強化
- 食育イベント等の実施体制の構築
- 人材の育成と活動の場づくり
- 食育をテーマとした地域会議等の開催と支援
- 優れた食育の取組の共有と発信
- すみだ食育goodネットなどへの支援と食育推進のネットワークの強化
- 食育活動の拠点づくりの支援
- 「新たな日常」に対応した食育活動の展開



「人づくりセミナー」の様子  
(すみだ食育goodネット)

## 区が進める食育の取組

健全な心身と豊かな人間性を育むためには、早期から食育に取り組むとともに成長段階に合わせた基礎的な食習慣や多様な食文化などへの理解を高めていくことが重要です。

### 1. ライフステージごとの取組

区では、乳幼児期から高齢期まで、ライフステージごとに様々な部署で食育に関する取組を行っています。

- 乳幼児期 (0～5歳)
- 小学生 (6～12歳)
- 中学生 (13～15歳)
- 高校生 (16～18歳)
- 青年期 (19～39歳)
- 壮年・中年期 (40～64歳)
- 高齢期 (65歳以上)



地産都消プロジェクト  
「さかな大好き」の取組



公立保育園の給食「行事食」



小学校の給食  
「世界の料理（スペイン）」



中学校の給食「明治22年頃の  
給食を一部再現した献立  
(学校給食週間)」

### 2. トータルライフステージの取組

すべての区民が世代や分野をこえて交流し、ともに楽しみながら食育を学び、体験する機会を提供しています。より多くの区民が食育に関心を持ち、積極的に食育活動に携われる環境づくりを行っています。



すみだ食育推進リーダー育成講習会



すみだ食育フェス・ランチタイム  
の様子



すみだ食育フェス・展示の様子



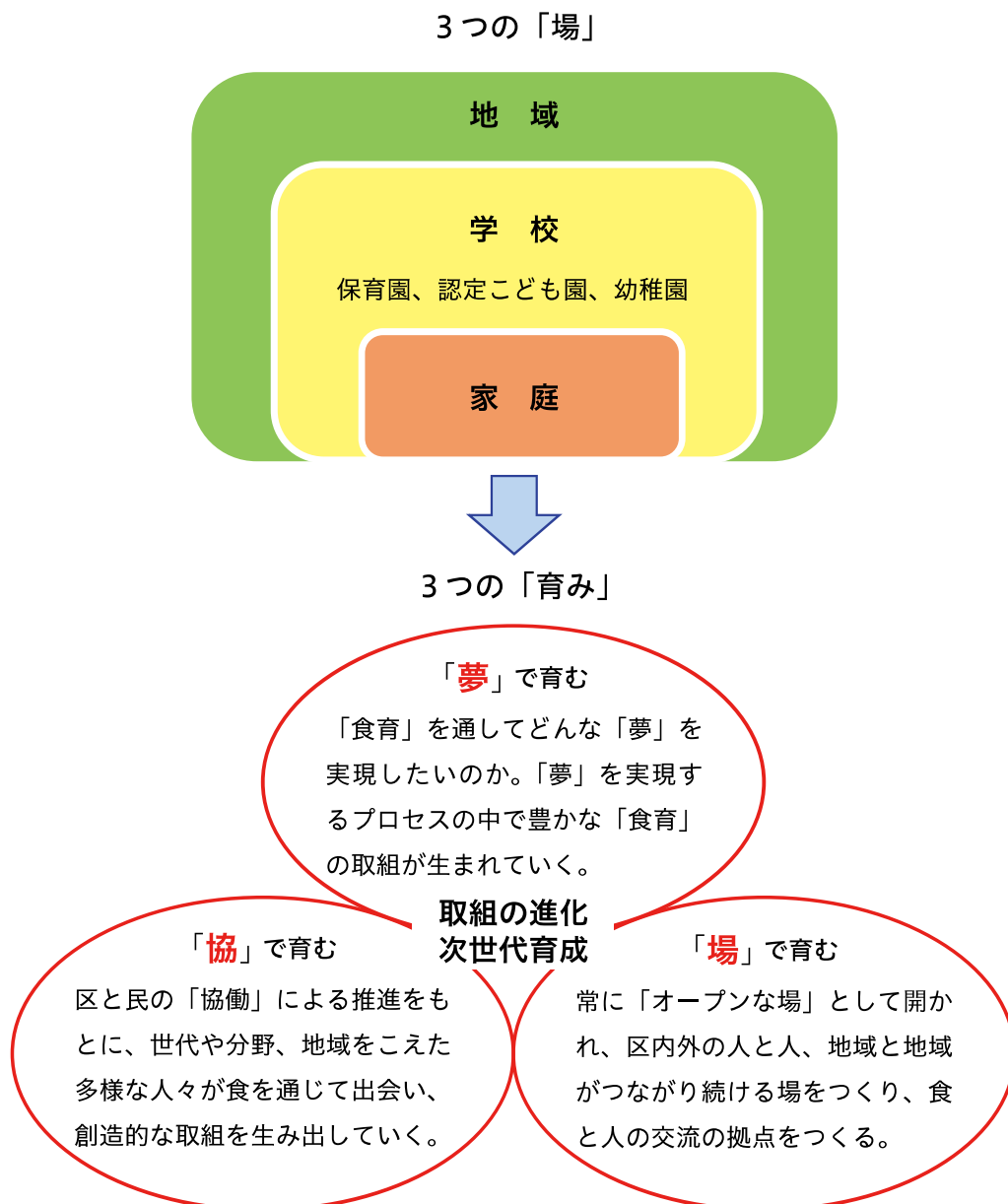
# 地域の力を育む区民が進める食育の取組

## 1. 3つの「育み」を活かした食育の推進

食育を推進するには、家庭、学校、地域という3つの場における取組と相互の連携による推進が必要といわれています。これまでの実践から、3つの場には、食育の取組をさらに進化させ、次世代の取組を推進する人材を生み出す3つの「育み」の要素があることがわかりました。

区民の主体的な取組から得られた「夢」で育む、「協」で育む、「場」で育むという3つの要素を「すみだの食育」の特長とし、食育推進の環境づくりを推進していきます。

### 3つの「場」における推進から3つの「育み」における推進へ



## 2. 次世代の担い手が生まれるしくみづくり

これまでの10年間のあゆみの中で、若者世代の食育を支援することで、その次の世代へとつながっていく事例があることが分かりました。区民、学生、若者、地域団体、NPO、事業者、企業、商店街などの関係者によるネットワークが若者のチャレンジを支援し、若者の新たな取組が子どもたちの豊かな食育の環境をつくり、「生きる力」を育てていました。

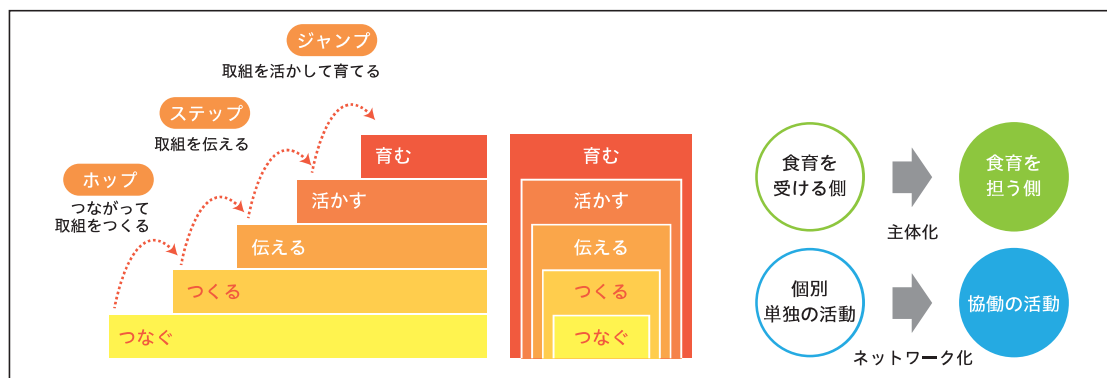
区では、こうした「育み」の連鎖が循環し続ける持続可能な食育のしくみを構築し、区民等が進める食育の取組を支援し、地域の力を高めていきます。

### 5つの行動のステップによる食育の展開（すみだ方式）

多様な主体が取り組む食育を推進するために、「つなぐ」→「つくる」→「伝える」→「活かす」→「育む」という行動の5つのステップを総合的に展開する方式を『すみだ方式』とし、「つなぐ」ことを基本に活動を進めます。

この『すみだ方式』の考えのもと、食育を受ける側から担う側へと主体化し、個別の取組から協働の取組へのネットワーク化を図っていきます。

#### 5つの行動のステップ



## 3. 食育で実現したい「夢」の共有から「協働」の基盤づくり

区民と区、地域の様々な関係機関、関係者との協働は、食育の取組を通して何を実現したいかという「夢」の共有から始まります。

「すみだの食育」の原動力は、多様な人々の参画によるワークショップでの「夢」の共有とその「夢」を伝えるために「寸劇」で表現してきましたが、新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から実施が難しくなってきました。そこで、国の「第4次食育推進基本計画」の重要項目の1つである「新しい生活様式」からワークショップの方法をリアルとデジタル（オンライン）のハイブリッド型へと工夫していくことも必要です。

## 4. 「協創の食育」を育み続ける拠点づくり

区内の様々な食育の取組に加え、近年では、千葉県多古町、山梨県笛吹市、福島県相双地域、北海道芽室町など、他地域との協働による活動へと発展してきました。

食育の推進は、SDGsや地方創生による関係人口、交流人口の増加等にも関連し、これまでの食教育や栽培体験等を包含した大きな視野で動く時代に入ってきています。

そうした視野を持ちつつ、地道で粘り強く手間をかけながら果敢に取り組む区民などの運動が「すみだの食育」であり、先駆的な活動の原点となっています。

今後は、食育推進のモデルとして「すみだの食育」について積極的に情報発信しながら、区内外の多様な人々が参画し、「協創の食育」を育み続ける「拠点づくり」をめざしていきます。

### 進捗管理と評価

計画に実行性を持たせるため、区民アンケートや食育に関連する区の各計画での評価などを用いて現状を把握します。そして、「すみだ食育推進会議」等において、食育推進の方向性や計画の進行状況について、総合的な検討・評価を行います。

#### ■ 評価指標

食育の取組の成果はすぐに現れるものではなく、ある程度の期間を見据え、量と質の両方から評価を行うとともに、新たな指標を検討することも必要です。

評価指標は、基本目標を柱として量的及び質的な項目を設定し、目標の達成状況を把握します。

#### 基本目標

(1) 定量的な評価  
(量的な評価)

- 区の取組  
(進捗状況や達成度など)
- 区民の意識・取組  
(アンケート調査など)

\* 設定項目：15 項目



(2) 定性的な評価  
(質的な評価)

- 食育の実践から育まれたものは何か  
(区民等と区の両面から調査)

(3) 特徴的な活動事例の評価 (ヒアリング・アンケート調査)



ひと



まち

2022(令和4)年度～2026(令和8)年度



ごりゅう

# 墨田区 食育推進計画



あんしん



きょうどう

